

地域の子育て支援 ～さいたまコープ「ひろば」の取り組み～

調査研究部 福田 いずみ

1. はじめに

初めての経験は万事不安や戸惑いが付き物である。それは、自分の子どもを育てる場合でも例外ではない。また、少子化によって今の子育て世代は、自分の子どもが生まれるまで赤ちゃんを抱いたことがないという人も多く、年の離れた兄弟や近所の子どもと一緒に遊ぶのが普通だった時代と違い、子どもが育つ過程を身近に感じることなく大人になった世代といわれている。

そんな中で、緻密なケアが必要な小さな子どもを育てている若い親たちは、経験や知識の不足から、常に育児に対する不安やストレスを抱えている。特に保育所や幼稚園に通わずに家庭で養育をしている乳幼児を持つ親は、特別な問題がある家庭以外は地域社会からの応援を求めにくく、社会から孤立した中で24時間の親業をこなさなければならない。

このような状況から親子を解放するべく、子育て中の親子が集って情報交換や日常の悩みを気軽に相談できる「場」（「ひろば」「サロン」）が、当事者性の強い市民の草の根の活動が中心となって全国に開設されてきた。

第25回JA大会では、地域コミュニティ活性化の「場」の設定の中で、地域の次世代をサポートする子育て支援活動の展開として「JA子育てひろばの開設」をあげ、JAとしても地域の子育て支援を課題としている。

現在「JAらしい子育て支援」として、いくつかのJAで「ひろば」や「センター」が開設され、取り組みがすすめられている。

本稿では、「ひろば」に関する取り組みを先駆的にすすめてきたNPO法人や、協同組合組織の活動の中から、生活協同組合さいたまコープの取り組みについて紹介する。若い組合員のニーズに耳を傾け、早い段階から子育て支援に積極的にに関わり、組合員や地域に貢献してきた生活協同組合の取り組みは、全国で300事例を超える。根拠法こそ違うものの、同じ「協同組合」として「組合員、地域住民の願いやニーズに応えるとともにJA事業・活動への理解を推進していきたい」というJAの願いと共通するものがあるのではないかな。

地域の中で確立されてきた先進的な事例として、参考にしていただければ幸いである。



コッコルームつどいのひろば・北本

2. さいたまコープの取り組みから

さいたまコープでは、現在県内に14ヶ所の「親子ひろば」や「つどいのひろば」を開設しているが、その中でも先駆的に活動をすすめてきたのがこの「Coccoルームつどいのひろば・北本」である。

活動の拠点をさいたまコープ コープ北本店の店舗内に併設している数少ないこの事例は、買い物ついでに気軽に立ち寄れるという利便性を含んだ条件から、若い世代の組合員を獲得する可能性を感じる取り組みでもある。

また、コープ北本店は地域に根付いた店舗であり、北本市内全ての小学校が社会科見学、中学校が職業体験に訪れる。そして、埼玉県組合員組織率が27.3%の中で、北本市は53.2%（世帯数に対する組合員数 2008年度末実績）という数字から地域住民からの認知度をうかがい知ることができる。

今回は、さいたまコープ コープ北本店が埼玉県と北本市からの委託を受けてすすめている子育て支援に関係する3つの事業（「地域子育て支援拠点事業ひろば型」「一時保育」「事業所保育」）の中から「地域子育て支援拠点事業ひろば型」の取り組みについて取材させていただいた。



さいたまコープ コープ北本店 店舗

3 F	つどいのひろば・保育 コープカルチャー
2 F	衣料と住まい(テナント)
1 F	食品と生活雑貨

フロアガイド

Coccoルームつどいのひろば・北本の概要

実施場所	さいたまコープ コープ北本店 3階
事業内容	・子育て親子の交流 ・子育てに関する相談 ・地域等の子育て関連情報の提供 ・子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ・その他子育て及び子育て支援に必要な事業
開設日等	毎週火曜日 木曜日 土曜日
開設時間	午前10時から午後3時 (食育を図るため、正午から午後1時の間をランチタイムとし開設時間は5時間とする)
対 象	0歳から小学校就学前まで
利 用 料	無料
利用方法	事前申込は設定せず自由利用 但し、利用者名簿に登録
スタッフ	保育士 子育て経験者

(1) ひろばの様子

さいたまコープ北本店3階にある約52㎡の明るい室内には、シルバー人材センターに依頼して作成したオリジナルの木製キッチンセットや知育玩具、木製のおもちゃ、絵本などが用意され、子どもが安全に楽しく遊べるように考えられている。また、ベビーベッドや幼児用サイズのトイレも設置されており、乳幼児期の親子が安心して過ごせるように工夫されている。

おりがみなどで作られたかわいらしい室内装飾は、スタッフの手作りで季節ごとに変化し、訪れる親子の目を楽しませている。



木製キッチンセット

(2) ひろばのスタッフ

スタッフは、保育士の他に、子育て経験者、保育学等を学んでいる学生のボランティアで構成されている。取材当日は、保育士と子育て経験者等の3名体制で対応にあたっていた。

ひろばのスタッフに指導者的な堅苦しさは無く、集まってくる親子を少し距離を置いて見守り、困ったときは相談相手になってくれる「子育ての先輩」という印象であった。

(3) イベント・講習会

取材に伺った日は、月2回開催されている「すくすくデー」という身長・体重を測定し、手形と足形をとるイベントを行っていた。少し緊張した面持ちの赤ちゃんが手や足にインクをつけてスタッフ手作りの台紙に手形と足形をつけてもらっていた。このイベントは、成長著しい乳幼児期の記録にもなると毎回好評を得ているとのこと。土曜日に開催すると父親の参加もみられるとのことである。



すくすくデー

「Coccoルームつどいのひろば・北本」では、「すくすくデー」の他に、月に一回は保育付で「手縫いのおもちゃ作り」や管理栄養士を招いての「離乳食の講習会」などの子育て関連の講習会を開催している。

Coccoルーム9月の講座

「離乳食 ～軟らかさと硬さ～」

どのくらいの月齢でどのくらいの硬さのものが食べられるの？
硬いものもしっかり食べて歯並びのことも考えてみましょう！
一緒に調理をしながら大人のおかずからの取り分け方を
教えていただきます

日時 9月29（火） 10:30～12:30
10:15～受付

場所 コープ北本店3階メイト室1

募集 12名 予約制（フレマもどうぞ）
別室にて有料保育有り 先着10名
北本市民 840円
市外民 1050円

持ち物 三角きん エプロン
保育利用の方
おむつ 箸替え 飲み物 他

参加費 無料

講師 管理栄養士

申込み開始 9/1（火）10:00～



講習会のチラシ

(4) ひろばの1日

三々五々親子が出入りする中で、初めて利用する親子には、スタッフがさりげなく声をかけるなどして、利用者に気を配っていた。一方、よく利用している親子は、玩具の場所などがよくわかっており、自由に遊び出す子どもの横で母親同士が語らい、終始賑やかな雰囲気であった。

正午を迎える頃になると、このタイミングで帰る親子と、ここで食事する親子に分かれる。玩具などが片付けられ、部屋の中央にテーブルがセッティングされ、12時から13時までの間はランチタイムとなる。それぞれが持参したお弁当などを囲み、午前中とは違った空気が流れ始める。ここに来て食事することによって気分が変わり、家ではあまり食べない子の食がすすむこともあるという。おしゃべりをしながら楽しそうに食事する親子の風景はとても和やかで、ほのぼのとしていた。

スタッフによると、このような場合は食事をしながら食に関する情報交換ができ、食育の絶好の機会でもあるという。コープの事業で食品を取扱っている関係上、食育も視野に入れた取組みを今後も意識していきたいとのことであった。

午後も引き続き「すくすくデー」が行われ、この日は午前中の利用者を含め、50組を越える親子で大変な賑わいをみせていた。



ランチタイム

利用者の声

- ・家とは違った色々なおもちゃがあり、機嫌よく遊んでくれる。
- ・年齢的に公園の遊具を使って遊ぶのはまだ無理なので、このような場所で遊ばせることができるのはありがたい。
- ・一日中子供とふたりきりでいると、気が滅入ってしまうが、ここに来ると気分転換できる。誰かと話せてうれしい。
- ・県外から転居してきたため、近所に知り合いがいなくて家に引きこもりがちだったが、ここに来るようになって友達ができた。
- ・近所に近い年齢の子どもがいなくて、まだ幼稚園にも行っていないので、ここに来ると遊び相手がいて子どもがよろこんでいる。
- ・同じくらいの年齢の子どものいる人と情報交換ができてうれしい。
- ・小児科や幼稚園などの口コミ情報が聞けて利用や選択の際の参考になっている。

(5) ひろばが目指すもの

利用者のほとんどが口コミや広報、コープのチラシによってこの存在を知り、利用するようになったということである。利用回数は週2回くらいから月2回くらいまで、利用者のニーズにより様々である。開設時間内なら出入りが自由なのでコープに買い物に来たついでに立ち寄るという親子も多いという。

さいたまコープの参加とネットワーク推進室子ども・子育て支援担当の根岸担当課長は「育児は育自、そして未来へつなげる大仕事。主体は親や家庭ですが、みんなで子どもと家庭を見守っていけるといいなと思います。“ひとりの子育てからみんなで子育て”へCocco^{コッコ}ルームがその一助となれるようめざし

ています」と取り組みへの思いを語ってくれた。

実際に「Coccoルームつどいのひろば・北本」は、その思いのとおりスタッフの非常に細やかな配慮のもとに作られた「地域と子育て中の家族をつなぐ場所」として利用者のニーズに充分応えているように見えた。

3. まとめ

厚生労働省は、少子化を食い止める目的からも「ひろば」などの市民発のムーブメントに着目し、この取り組みを平成14年度創設事業「つどいの広場」とし、次世代育成支援対策交付金において取り組み内容に応じた支援をスタートさせ、今年4月、児童福祉法の一部改正により第2種社会福祉事業「地域子育て支援拠点事業」(資料)の中に位置づけた。

この事業は、「孤独な育児」が問題視されている現在、精神的な安定や問題解決の糸口となる機会を提供することによって親を支援し、子ども福祉を向上させていくという重要な意義を持っている。

しかし、都市部を中心に広がった「ひろば」などのセーフティネットが地域社会に根付いてゆくためには、なお課題も多い。例えば、農村部において子育て支援を考える場合、都市部と比べ就業形態や家族形態が多様であり、生産の現場と生活の場が一致しているという特質や、集落や地域の特性などを考慮したきめの細かい支援策が必要である。

地域に基盤を持つJ Aがその強みを生かした子育て支援として「子育てひろば」などの取り組みに積極的に関わっていくことは、子育て中の家族を支援するだけでなく、未来を担う若い地域住民との絆を深めることにもつながるだろう。

政権政党が代わり、子どもと家庭に対する施策に焦点が当たっている今、子育て支援に関する動きに今後も注目していきたいと思う。

(資料)

地域子育て支援拠点事業

目 的

少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大等といった問題が生じています。このため、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を推進することにより、地域の子育て支援機能の充実に図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進することを目的としています。

概 要

	機 能	基本事業	実施形態
【ひろば型】	常設のつどいの場を設け、地域の子育て支援機能の充実を図る取組を実施	1 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 2 子育て等に関する相談・援助の実施 3 地域の子育て関連情報の提供	1～4の事業を子育て親子が気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い、相互に交流を図る常設の場を設けて実施
【センター型】	地域の子育て支援情報の収集・提供に努め、子育て全般に関する専門的な支援を行う拠点として機能すると共に、地域支援活動を実施	4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施	1～4の事業の実施に加え、地域の関係機関や子育て支援活動を行う団体等と連携して、地域に出向いた地域支援活動を実施
【児童館型】	民営の児童館内で一定時間、つどいの場を設け、子育て支援活動従事者による地域の子育て支援のための取組を実施		1～4の事業を児童館の学齢児が来館する前の時間を活用し、子育て中の当事者や経験者をスタッフに交えて実施

資料出所 i-子育てネット

<http://www.i-kosodate.net/support/shienkyoten.html>

参考文献

- ・『平成20年度 若年女性農業者の経営参画促進支援事業農村地域子育て支援関連活動 報告書』 J A全中
- ・『2008年度「子育てひろば」の常設化に向けた研究交流事業 報告書』財団法人 生協総合研究所